

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業

年度経営報告書

2024（令和6）年度

2025 年 3 月



三浦下水道コンセッション株式会社

目次

1.事業実施状況	1
1-1.事業概要	1
1-2.運営体制	2
1-3.内部統制	5
2.業務実施状況	6
2-1.経営に関する実績	6
(1)環境対策	6
2-2.改築及び増築に関する実績	6
(1) 改築	6
(2) 第 2 期改築計画の策定	8
(3) 増築	9
2-3.維持管理に関する実績.....	11
(1) 処理場・ポンプ場の維持管理	11
(2) 管路の維持管理	14
2-4.地域貢献に関する実績.....	15
(1) 地域貢献	15
(2) 広報活動実施計画.....	15
(3) 地元企業の利活用に関する事項	15
2-5.任意事業に関する計画.....	16
(1) 下水道資源を活用した高付加価値作物の生産事業	16
(2) B-DASH を活用した省エネ水処理技術導入.....	16
(3)技術実証フィールドの提供	16
3.財務管理	17
3-1.財務状況	17
3-2.2024 年度 KPI（財務管理目標値）の状況.....	18
4.2024 年度 KPI（財務管理目標値以外の目標値）の状況.....	19
別紙.2024 年度発注工事一覧表	21

1.事業実施状況

1-1.事業概要

1. 事業名称

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業

2. 施設の規模等

（1）1日当たり処理能力

8,050 m³

（2）管路の総延長

59 k m

（3）処理区域

三浦市東部処理区



図 1-1.三浦市公共下水道（東部処理区）事業エリア

1-2.運営体制

運営体制は以下の通り。

(1) 運営管理体制の強化

昨年度構築した運営管理体制をより強化するため、今年度は次の6点に取り組んだ。

詳細は、以下のとおり。

① 体制変更の定着による業務改善

令和6年1月に実施した、技術部の3分掌体制への変更により、責任分担・役割分担の明確化を達成した。また、変更後の体制の定着により、セルフモニタリング資料や経営計画書等に関して各技術部間、管理部・各技術部間でのクロスチェック、そして統括責任者のダブルチェックを実施し、チェック体制の強化等の業務改善を図った。

② 業務の標準化

契約書情報をデータベース化し、必要となる契約情報を適時に抽出可能となった。官積算業務のマニュアルや更新・新設工事についてのワークフロー・マニュアル作成に取り組み、改築・増築工事に関する業務の標準化を進めた。

③ 運営管理経験者による担当職員の研修育成

運営管理経験者が、主にOJTにより日常的にノウハウの共有を行い、職員の育成を図った。総務経理の業務につき、継続して勉強会を実施し、担当職員へのスキル継承を行った。

④ 管理部業務のマニュアル化

セルフモニタリングや経理業務、契約業務等に関するマニュアルを整備し、作業ミスの低減、担当変更に伴う引継ぎ時間の短縮を実現した。

⑤ 地元企業等の育成支援として、当社及び株主企業による研修・訓練プログラムの実施

地元企業等に向けた専門業者による下水管調査の研修を10/8に実施した。

⑥ 遠隔監視システム、水質自動制御システムなどのICT投資による業務の効率化

遠隔監視システムは、3月に工事が完了した。来年度より、(株)ウォーターエージェンシー本社「危機管理コントロールセンター」からのバックアップ体制を構築し、運転監視の効率化ならびに緊急対応力の向上を目指す。

水質自動制御システム(水再清ロボット)は、11月に工事が完了した。送風量自動制御については、送風機設備を更新した後(令和8年度完了予定)、実運用を開始する。送風機更新までの期間は、システムの出力結果を手動での運転操作の参考とする。

今年度から維持管理支援ツール(処理場・ポンプ場、管路)を導入し、下水道施設の点検記録はタブレット端末を用いて直接電子保存できるようになり、業務の効率化を図った。また、今年度からデジタル情報基盤の運用を開始し、運転管理データや施設健全度等の情報の集約管理を進めており、今後の業務効率化に向けてデータを蓄積し始めている。

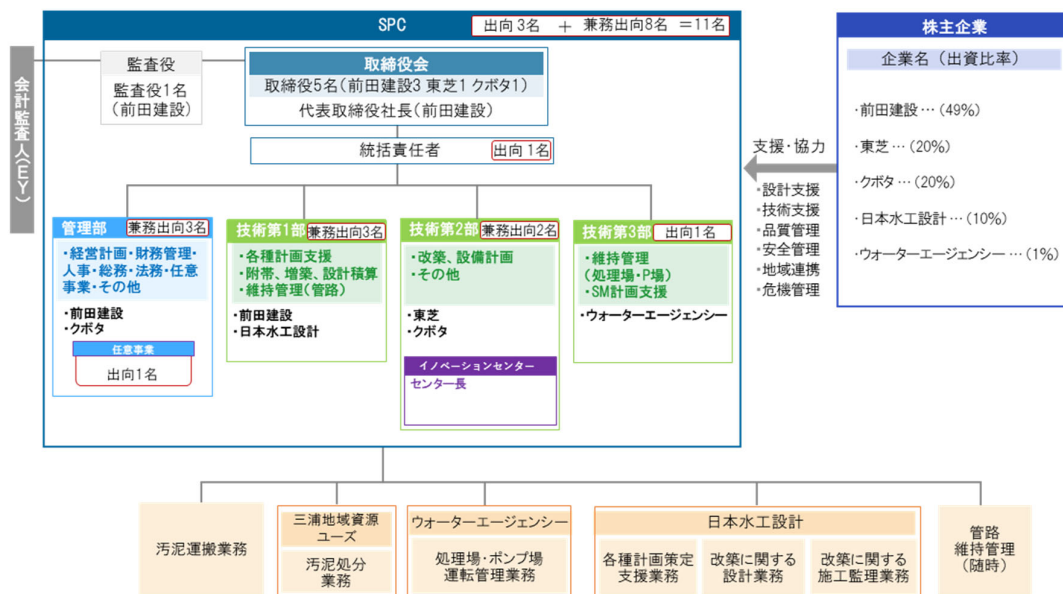


図 1-2.三浦下水道コンセッション株式会社の組織体制

前田建設	東芝	クボタ	日本水工設計	ウォーターエージェンシー
■ コンセッション運営の知見提供 ■ 土木・建築の改築計画等の策定支援 ■ 事業運営支援	■ 重電設備企業の知見提供 ■ 電気設備等の最適化・改築計画等の策定支援 ■ 改築・修繕支援	■ 水環境設備企業の知見提供 ■ 機械設備等の最適化・改築計画等の策定支援 ■ 改築・修繕支援	■ 水関連コンサル企業の知見提供 ■ スtockマネジメント計画等各種計画策定・設計	■ 本施設維持管理等の知見提供 ■ 運転管理業務、維持管理・修繕計画等策定支援 ■ 運転管理

(■ : 役割 ■ : 責任)

図 1-3.株主企業の責任・役割

表 1-4.配置者の業務系経験・技術者要件

業務経験・技術者要件	部署	常駐	兼務
官民連携事業における土木・建築工事、修繕、点検に関する業務経験者	統括責任者	1 名	
	技術第 1 部	—	1 名
施設に関する包括維持管理業務（運転管理業務）経験者	技術第 3 部	1 名	—
下水道電気設備技術者	技術第 2 部	—	1 名
下水道機械設備技術者	技術第 2 部	—	1 名
技術士を有する官民連携事業の経験が豊富な技術者	技術第 1 部	—	1 名
SPC 運営管理・地域連携部門の経験者	管理部	—	2 名

(2) 災害時・緊急事態発生時の防災体制

巨大地震やその影響による津波、台風や、豪雨等による高波、高潮等を想定し、三浦市 BCP 及び国交省下水道 BCP 策定マニュアルを踏まえ策定した本事業の BCP を、いつ発動させても対応可能な状態を維持した。

実施予定の各種訓練の実施状況は以下のとおりである。

表 1-5.各種訓練実施状況

訓練名称	訓練内容	予定 時期	実施日
BCP 教育訓練	講習会等を開催し、BCP の位置付けや内容及び活用方法についての 当社職員の理解促進を図るとともに、BCP の見直しに向けた意見収集 の場として活用	4 月	5/14
安否確認 訓練	・当社職員は、携帯電話やメール等により安否を連絡 ・安否確認担当者は、安否確認の回答をとりまとめ	4 月	5/28
参集訓練	・地震（震度 6 強）を想定した当社職員の非常参集 ・勤務時間外（早朝 7 時あたり）に、震度 6 強の地震が発生し、市 内交通機関が利用できない状況を想定し、当社職員が自宅や通勤 途中から徒歩又は自転車により東部浄化センターに参集または移動 経路を確認する訓練	9 月	9/27
BCP 対応 訓練	・株主企業である前田建設の BCP 訓練に参加 ・安否確認担当者は、安否確認の回答をとりまとめ	11 月	11/22
図上訓練	・非常時対応計画等の対応手順等、訓練シナリオを事前に提示して、 手順通りに対応を行う ・処理場、ポンプ場維持管理業務委託業者と合同訓練を実施	2 月	9/19
実地訓練	・東部浄化センター、金田中継センターにおける緊急点検調査及び措 置における実地訓練	9 月	9/19
	・管路の緊急点検調査及び措置の実地訓練		9/19
情報伝達 訓練	・市下水道対策本部と当社災害対策本部との情報伝達訓練 ・構成企業、委託業者との情報伝達訓練	2 月	2/26

(3) 委託等の実績

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業 年度経営計画書（2024（令和 6）年度）
（以下、「2024 年度経営計画」とする。）に記載の通り、下記企業に業務委託を行った。

運転管理業務委託 : (株)ウォーターエージェンシー
 計画策定支援委託、設計施工監理業務委託 : 日本水工設計(株)、(有)ビッグバレイサービス
 污泥処分業務委託 : 三浦地域資源ユーズ(株)、(株)デイ・シイ
 污泥収集運搬業務委託 : 田中石材土木(株)、(株)松沢興産
 管路維持管理委託 : 管清工業(株)、(有)石渡技建
 (株)ウォーターエージェンシー、相模開発(株)

1-3.内部統制

内部統制の基本方針、企業行動憲章を定め、内部通報窓口を設置。

また、透明性と公正性が高いコーポレートガバナンスと、企業倫理に優れた内部統制として管理部と技術部（3 部門へ分掌）を設置。

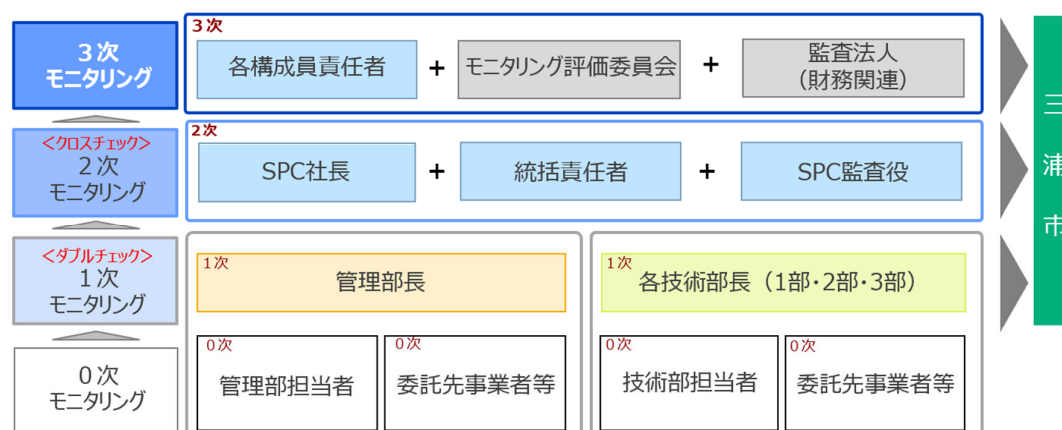


表 1-6.セルフモニタリング体制図

今年度のセルフモニタリング実施状況は以下のとおりである。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
1次モニタリング 業務改善会議（1次）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
2次モニタリング 業務改善会議（2次）	●			●			●			●			
3次モニタリング モニタリング評価委員会					●								外部評価者も加えて実施

表 1-7.セルフモニタリング実施状況

会社法、社内規程に基づき株主総会（2 回）、取締役会（10 回）を開催した。また、会計監査人及び監査役による監査を実施した。

2.業務実施状況

2024 年度経営計画で策定した計画の実施状況は以下の通り。

なお、後述する各節で示す計画と実績の凡例については、以下のとおり。

【凡例】

計画：2024 年度経営計画で策定した計画

実績：2024 年度の実績

2-1.経営に関する実績

(1)環境対策

計画	計画予測値の精度を実測検証することにより定量的に電力購入量の削減効果をモニタリングする
実績	4 月～3 月の東部浄化センターの消費電力のうち約 18%を賄った 太陽光発電を開始した 6 月～3 月については、想定していた購入電力量 20%削減を達成しており（22%）、計画予測値（20%）の精度の高さを確認した

2-2.改築及び増築に関する実績

本年度完成した改築及び増築工事の件数は下記の通りである。

- ・改築：15 件 《内訳》処理場 6 件、ポンプ場 1 件、管路 5 件、マンホールポンプ 3 件
- ・増築：3 件 《内訳》管路 2 件、マンホールポンプ 1 件

繰越となった増築工事「金田岩浦地区枝線管渠増築工事に伴う舗装本復旧工事」の 1 件については、当該増築工事に隣接した住民の要望のため工事期間に制限が生じたことから、本舗装工事の施工時期を繰り越さざるを得なかった。

監視制御設備等更新工事の完了により遠隔監視が可能となった。今後は運転維持管理委託先の集中監視拠点での遠隔監視を開始し、維持管理体制の効率化に向けた検証を進める。マンホールポンプ 3 機場の改築においては、国土交通省の下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）にて実証された新技術を採用した。今後、他機場へも本技術の導入を進め、予防保全と状態監視及び劣化予測による健全度判定を図る。

第 1 期（令和 5・6 年度）は計画の精査、設計、特に官積算に多くの時間を要した。次期からは当社が策定支援したストックマネジメント計画に基づき、設計を原則前年度までに完了し、積算ソフトを活用した官積算の推進等、遅延のない工事発注に向け、改善を図る。

(1)改築

年度計画と実績の対比を以下に説明する。また、今年度発注の工事について、別紙一覧に示す。

表 2-1.土木建築工事計画と実績の対比

計画				実績
工事対象		備 考		
東部浄化センター				
1	管理本館	土木内部	マンホール蓋φ600 (4 箇所) の交換	数量変更 ・管理本館：5 箇所
2	地下オイル タンク	地下オイルタンク	自家発電設備の更新に 伴い不要となった地下オイル タンクの処分	自家発電設備更新工事内(表 2-2-1)で廃止処理を実施
3	汚泥処理棟	土木内部	マンホール蓋φ600 (1 箇所) の交換	一部数量変更 ・汚泥処理棟：3 箇所 ・1 系水処理：8 箇所 ・2 系水処理：1 箇所
4	1 系水処理	土木内部	マンホール蓋φ600 (17 箇所) の交換	
5	2 系水処理	土木内部	マンホール蓋φ600 (1 箇所) の交換	
金田中継センター			工事予定なし	
マンホールポンプ (MP) 等				
6	下宮田 3 号 ポンプ室	建築・土木付帯	内装 (ガラスワール) の更 新	計画通り完了
7		建築設備	圧力扇 (ファン) 、給水 管の更新	

表 2-2.電気・機械工事計画と実績の対比

計 画				実 績
工事対象		備 考		
東部浄化センター				
1	管理棟	自家発電ユニット	設備更新 2ヶ年工事の2年目	計画通り完了
2		監視装置ユニット (附帯提案事業)	遠隔監視システム導入 2ヶ年工事の2年目	計画通り完了
3	水処理棟	凝集剤添加ユニット (附帯提案事業)	新設。放流水質の安定化 に寄与するもの	計画通り完了
金田中継センター				
4	監視制御	監視制御ユニット 2 (ポンプ場)	設備更新 2ヶ年工事の2年目	計画通り完了
5	上宮田 2 号 MP	電気設備	設備更新。	計画通り完了 ※左記 2 工事は 1 つの工事に 纏め、発注した。
6	上宮田 4 号 MP	電気設備	設備更新。	
7	下宮田 3 号ポンプ室	自家発電ユニット	設備更新 2ヶ年工事の2年目	計画通り完了

表 2-3.管路施設工事計画と実績の対比

計 画			実 績
工事対象		備 考	
管路施設			
1	本管	布設替え：約 50 m	実施見送り （調査結果に基づく緊急度判定等より、急を要しないと判断）
2		管更生：約 133m	2023 年度末に完了予定であったが、更生材料の納期に時間が掛かることが判明したため工期を延長し、2024 年 6 月末に完了した ・Φ200×61m ・Φ250×48m ・Φ350×24m
3		管更生：約 150 m	計画通り完了 ・Φ200×27m ・Φ250×33m 想定していなかった事象が発生し時間を要したため、前処理まで実施（管更生施工は R7 予定） ・Φ350×110m
4	マンホール	蓋交換：52 箇所	計画通り完了
5	マンホール（金田蛭田地区）	蓋交換：9 箇所	計画通り完了
6	マンホール（金田皆ヶ久保地区）	蓋交換：4 箇所	計画通り完了

※5・6については、年度当初計画していなかったが、神奈川県発注の道路補修工事に伴い実施した。

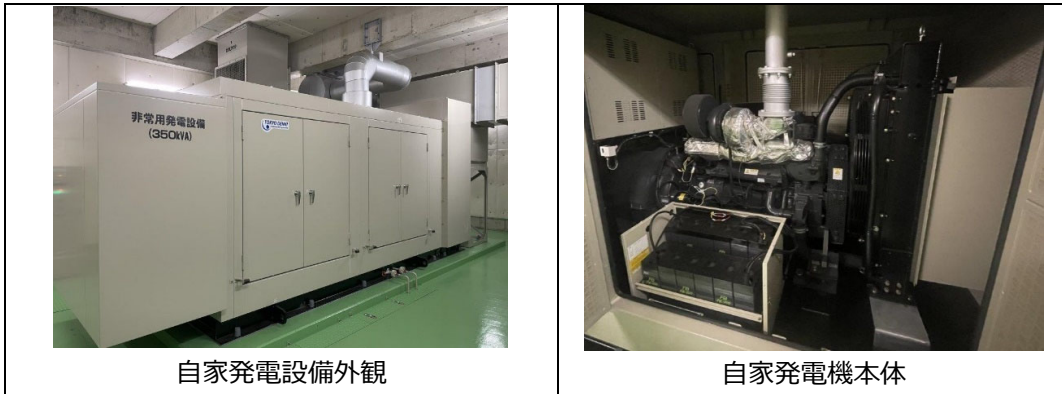
(2)第 2 期改築計画の策定

計画	第 2 期改築期間は 2025（令和 7）年度から 2029（令和 11）年度までの 5 年間である。第 2 期改築計画は 2024（令和 6）年度までに三浦市と調整して策定 今後の人口減少予測等を反映した適切な計画汚水量へ見直したうえで、過大となっている設備の能力を適切なものに見直し（ダウンサイジング）、改築計画に反映。これにより、改築にかかる費用を削減するとともに、維持管理費（電気代等）の削減につなげる
実績	2025（令和 7）年度から 2029（令和 11）年度までの 5 年間の第 2 期改築計画を三浦市と調整し策定した 今後の人口減少予測等を反映した適切な計画汚水量へ見直したうえで、設備の能力を適切なものに見直し（ダウンサイジング）、改築計画に反映した 今回策定した改築計画の中で特に電力削減効果の高い改築は、以下の 2

	つが代表的なものとなる ①機械攪拌式曝気装置から低圧損型メンブレンパネル式散気装置への改築及び適正なダウンサイジングにより、高い電力削減が期待できる ②「電力消費量の多い」遠心脱水機から「電力消費量の少ない」スクリーンプレス式汚泥脱水機への更新を前回計画より前倒したことにより、早期から電力削減が可能となる
--	--

(3)増築

計画	下記 2 件の工事を実施予定 ・令和 5 年度金田岩浦地区枝線管渠増築工事 ・令和 6 年度金田岩浦地区マンホールポンプ設置工事 下記 1 件の設計業務を実施予定（工事は令和 7 年度予定） ・令和 6 年度上宮田・下宮田地区枝線管渠増築工事詳細設計業務
実績	下記の工事 3 件、設計業務 1 件を完了した ・令和 5 年度金田岩浦地区枝線管渠増築工事 ・令和 6 年度金田岩浦地区マンホールポンプ設置工事 ・令和 6 年度上宮田岩井口地区整備工事 年度当初計画していなかったが、住民要望により実施した ・令和 6 年度上宮田・下宮田地区枝線管渠増築工事詳細設計業務 上記の「令和 5 年度金田岩浦地区枝線管渠増築工事」の舗装復旧工事は、工事路線沿いに在住の営農者より、工事時期に関する要望があったため工事は切り離し、現場施工は令和 7 年度予定である ・令和 6 年度金田岩浦地区枝線管渠増築工事に伴う舗装本復旧工事



自家発電設備外観

自家発電機本体

東部浄化センター自家発電設備等更新工事（（１）改築・表 2-2-1）



Web サーバ盤／ゲートウェイ装置

監視モニタ

東部浄化センター監視制御設備等更新工事（（１）改築・表 2-2-2）



施工前

施工中

施工完了

本管改築工事（管更生）（（１）改築・表 2-3-3）



ポンプ設置完了

制御盤試運転

クラウド監視画面

金田岩浦地区マンホールポンプ設置工事（（３）増築）

2-3.維持管理に関する実績

○処理場・ポンプ場

悪質排水の流入による影響はないが、降雨等による不明水の流入がみられたことから、マンホール蓋交換工事後の状況などを踏まえ、引き続き不明水の多い地区を検証する必要がある。処理状況については、放流水質基準、排出汚泥の要求水準ともに 100%達成することができた。また排出した汚泥のうち 99%を堆肥化、1%をセメント原料として再利用した。

第 1 期（令和 5・6 年度）においても放流水質基準及び排出汚泥の要求水準は全て達成しているものの、監視のための試験（常時監視 C）については、連休やイベント開催時の高負荷流入による、全窒素、全燐の上昇や降雨後の全燐の上昇が時折みられたため、より柔軟な対応が課題となっている。東部浄化センターの流入水量は減少傾向にあるため、今後もその推移を捉え慎重に更新計画を策定する必要がある。

○管路

計画していた点検・修繕は予定通り実施した。住民通報は全て即座に対応した。道路陥没、溢水等、市民生活に影響するような事象の発生はなかった。また、八潮市での道路陥没事故を受け、緊急自主点検を実施した（緊急を要する異状なし）。

第 1 期（令和 5・6 年度）において、点検業務は概ね計画通りに実施した。修繕業務に関しては、事業開始までに三浦市により緊急性の高い改築や修繕工事等が先行して実施されていたこともあり、当初想定されていた修繕の数量（平成 29 年度に策定された計画に基づく）には達していない。今後も適宜点検結果を精査のうえ、計画的に修繕等を実施し、予防保全を促進する。

(1)処理場・ポンプ場の維持管理

計画	(1) 体制 ・昨年度に引き続き、(株)ウォーターエージェンシーに委託 ・遠隔監視システムや凝集剤添加設備設置工事の実施 (2) 水質管理 ・放流水質基準の遵守 ・水処理設備への計測装置や制御装置の設置 (3) 汚泥管理 ・脱水ケーキ発生量の軽減、また悪臭等の苦情原因とならないよう、脱水汚泥の含水率を 79%以下とする (4) 保守点検 ・昨年度に導入した維持管理支援ツール、デジタル情報基盤を活用し、日々の点検・調査結果や故障・修繕履歴、消耗品保管状況等を集約管理 ・集約した維持管理データを可視化し、機器の異常傾向など設備状態の見える化を図り、より効果的な修繕計画を立案・実行
----	--

	・年度経営計画書に記載の保守点検スケジュールどおりに点検 (5) 労働衛生管理 ・「労働災害ゼロ」「車両事故ゼロ」を目指すために、日常からの安全衛生教育と年 1 回安全パトロールを実施 ・発注工事において、株主企業による安全パトロールを実施 (6) エネルギー管理 ・送風機や污水ポンプ、返送汚泥ポンプ等消費電力の大きな設備について、運転方法ごとの電力使用量を詳細に把握し、省エネルギー手法を検討。水処理や汚泥処理に係る多種多様な設備のエネルギー効率を考慮し、消費電力が少ない最適な運転条件の設定や改築時の機器選択への反映により省エネルギー化を実現。
実績	(1) 体制 ・処理場・ポンプ場の維持管理は(株)ウォーターエージェンシーに委託 ・遠隔監視システム導入により(株)ウォーターエージェンシー本社：危機管理コントロールセンターからのバックアップ体制を構築、運転監視の効率化ならびに緊急対応力の向上を目指す ・凝集剤添加設備工事完了に伴い、より良好な放流水質の安定化を目指す (2) 水質管理 ・流入水質において悪質排水はないが、不明水の流入がみられることから、マンホール蓋の交換工事など改善状況を注視する必要がある ・放流水質の法定基準の遵守、要求水準について全て達成 ・水質自動制御システム（水再清ロボット）導入により、放流水質の更なる安定化を目指す (3) 汚泥管理 ・悪臭等の苦情はなし ・排出汚泥の要求水準 80%、汚泥管理目標 79%を全て達成 (4) 保守点検 ・年度経営計画書に記載の保守点検スケジュールどおりに点検を実施 ・昨年度に導入したデジタル情報基盤を活用し、故障・修繕履歴、消耗品保管状況等の集約管理方法を検討 ・維持管理支援ツール（タブレット点検調査機能）による点検を実施し、点検結果を蓄積 ・蓄積したデータを基に、機器の異常傾向など設備状態の見える化を図り、より効果的な修繕計画や改築更新を目指す (5) 労働衛生管理 ・労働災害、車両事故ゼロを達成 ・発注工事において、株主企業による安全パトロールを実施

	(6) エネルギー管理 ・送風機や污水ポンプ、返送汚泥ポンプ等消費電力の大きな設備について、運転方法ごとの電力使用量を詳細に把握し、省エネルギー手法を検討。水処理や汚泥処理に係る多種多様な設備のエネルギー効率を考慮し、消費電力が少ない最適な運転条件の設定により省エネルギー化を実現。 ・汚水量 1m³ を処理するために必要な電力量を確認するための電力原単位（買電+太陽光発電）では、年間当たり昨年度比マイナス 5%を達成
--	--

表 2-4.水質に関する要求水準達成状況

項目	単位	法令上の制約 基準値 下水道法施行令 水質汚濁防止法	法定基準 遵守回数	要求水準値 ※ 1	法定分析		要求水準 達成回数	要求水準 達成率
					実施回数			
					計画	実績		
p H	－	5.8～8.6	24	6.0～8.0	24	24	24	100%
B O D	mg/L	15	24	15.0以下	24	24	24	100%
C O D	mg/L	25(20)※2,3	24	15.0以下	24	24	24	100%
S S	mg/L	40※3	24	10.0以下	24	24	24	100%
全窒素	mg/L	30※3	24	20.0以下	24	24	24	100%
全磷	mg/L	4※3	24	2以下	24	24	24	100%
大腸菌群数	個/mL	3,000	24	30以下	24	24	24	100%

※ 1 常時放流水質に求める基準 ※ 2 () 内は、日平均を示す

※ 3 「神奈川県大気汚染防止法第 4 条第 1 項の規定による排出基準及び水質汚濁防止法第 3 条第 3 項の規定による排水基準を定める条例」に基づく、上乘せ基準値を記載

表 2-5.電力原単位の推移

項目	2023年度	2024年度
污水处理水量(m3/年)	1,555,333	1,557,386
電力使用量 (kWh/年) ※1	1,174,900	1,126,052
電力原単位 (kWh/m3)	0.76	0.72

※ 1 電力使用量は東部浄化センター運転管理に消費した買電+太陽光発電の合計値とする

(2) 管路の維持管理

年度計画と実績の対比を以下で説明する。なお、2024 年 6 月に計画の見直しを行っている。

表 2-5 管路維持管理計画と実績の対比

維持管理項目			計画 (6月見直し)	実績
管きょ点検				
点検	マンホール蓋点検工	マンホール目視点検工	—	計画通り完了
		マンホール目視点検工	95 基	
		管口カメラ	—	
	スクリーニング調査	φ450 以下	763 m	
		φ500～φ700	2,778 m	
		φ800 以上	2,058 m	
	取付管調査	取付管カメラ調査	200 箇所	
維持修繕			—	追加分 200 箇所の調査を完了
巡視	巡視		11.5 km	計画通り完了
	伏越し清掃		—	—
	本管修繕		—	—
	マンホール修繕		22 箇所	計画通り完了
	公共ます修繕		—	—

- ・突発修繕業務は 3 件発生し、全て対応が完了
- ・住民通報は 8 件発生し、全て対応が完了
- ・パトロール中に発見した公共汚水ます蓋の破損 1 箇所については R7 年度に修繕対応予定
- ・1/28 に発生した八潮市での道路陥没事故を受け、1/31 及び 2/26 に緊急自主点検を実施
 - 実施内容：巡視（幹線等約 10km）、人孔内点検（舗装亀裂箇所等全 22 箇所）
 - 点検結果：緊急を要する異状は無し



管路緊急自主点検状況

2-4.地域貢献に関する実績

海辺の清掃活動、みうら市民まつりへの出展、高校生や地域住民を対象とした処理場施設見学会を開催し、地域貢献・広報活動の計画を履行することができた。地元企業の利活用については、3件の工事を地元企業へ発注した。

第1期（令和5・6年度）においては、2年連続でみうら市民まつりへの出展と地域住民向けの見学会を実施し、住民の方々に下水道事業をPRした。来期以降で、ネーミングライツ等のPR活動を予定している。また、任意事業を通じて、地元の三浦初声高等学校との連携を図った。地元企業の利活用の点では、2年間で土木・建築工事2件、管路施設工事4件、電気・機械工事1件を発注した。地元企業への発注予定工事を、予定していた地元企業からの辞退によりやむを得ず市外業者へ発注した事例もあったため、今後は早期発注を図り、更なる地元企業の利活用を目指す。

(1)地域貢献

計画	①職員による東部浄化センター周辺の海辺の清掃活動を実施 ②三浦地域で開催されるイベントへ参加し、本事業のPR活動を実施
実績	①6/7に清掃活動を実施 ②11/17に開催されたみうら市民まつりに出展し、本事業のPR活動としてパネル展や、クイズ、子供向けの輪投げ・折り紙を実施

(2)広報活動実施計画

計画	2024年4月～2025年3月までの間に2回以上、地域住民や地元教育機関向けに処理場施設見学会を開催
実績	・8/20 三浦初声高等学校都市農業科生徒を対象とした施設見学会を実施 ・2/15 地域住民向け見学会を開催 実績：14名の市民参加

(3) 地元企業の利活用に関する事項

※地元企業とは、三浦市内に本社を置く企業を指す。

計画	以下の工事を地元企業へ発注することを目標に設定する ・改築工事（土木建築と管路施設） ・維持管理関連修繕工事 各種修繕工事（本管、マンホール、公共汚水ます）
実績	・発注した改築・増築工事14件のうち（土木建築工事2件、管路施設工事7件、電気・機械工事5件）、土木建築工事1件、管路施設工事2件を地元企業へ発注 ・地元企業への発注を予定していた増築工事1件、電気工事1件は地元企業辞退により市外企業へ発注 ・マンホール蓋修繕工事1件を地元企業へ発注

2-5.任意事業に関する計画

下水道資源を活用した高付加価値作物生産事業については、新設した栽培施設での作物栽培を開始し、地元雇用の栽培従事者とともに栽培管理に取り組んでいる。神奈川県立三浦初声高等学校とは年間を通じて連携活動を継続して実施した。

B-DASH を活用した省エネ水処理技術導入については、B-DASH 採択可能性等の考慮から、提案内容を返流水処理のパイロットプラント実証とする方針を提起し、市と協議のうえ、了承を得た。2025 年度の B-DASH 事業のテーマ応募に向け、提案内容の検討を進めた。

技術実証フィールドの提供については、事業開始に向けた体制を整え、市の承諾を得たうえで技術の募集を開始した。

(1) 下水道資源を活用した高付加価値作物の生産事業

計画	神奈川県立三浦初声高等学校都市農業科及び地元採用の栽培管理従事者とともに、下水熱を利用した栽培施設で作物の栽培実証実験を実施
実績	・栽培施設の試運転・調整を経て 6 月より作物（イチゴ）の栽培を開始 ・市内在住者を新規雇用し、栽培支援に従事いただいている ・三浦初声高校との連携活動として、処理場見学会（8 月）、現地作業会（8 月・10 月・1 月）、出前授業（4 月・5 月）、講演会（1 月）を開催

(2) B-DASH を活用した省エネ水処理技術導入

計画	2024 年 4 月～2025 年 3 月までの間に、2025 年度以降の国交省 B-DASH 事業応募に向け、関連する機械設備更新計画（メンブレン及び送風機）とのストックマネジメント計画を考慮した導入更新時期に関する調整含め、RBC（回転繊維ユニット）の導入を検討
実績	・RBC の導入計画立案のため、①施工法についての現地調査、②処理場のサンプル水の水質分析を実施 ・B-DASH 採択可能性等の考慮から、提案内容を返流水処理のパイロットプラント実証とする方針を提起し、市と協議のうえ、了承を得た

(3) 技術実証フィールドの提供

計画	技術実証フィールドの提供開始に向け、事業の運営体制、外部組織との連携、技術の要件定義等の検討を行い、受入体制を整備
実績	・事業の運営体制、外部組織との連携、技術の要件定義等の検討を行い、受入体制を整備 ・事業の提案概要書を市に提出し、事業開始の承諾を得た（11 月） ・ホームページに専用の募集窓口を新設し、事業を開始した（3 月）

3.財務管理

3-1.財務状況

【単位：千円】

科 目	2024年度		
	計画(4月～3月) (A)	実績(4月～3月) (B)	差額(4月～3月) (C) = (B) - (A)
経常収益			
利用料金	190,587	199,238	8,649
計画支援報酬	50,930	55,530	4,600
営業外収益	—	3,596	3,596
経常費用			
売上原価	195,475	195,643	167
販売費及び一般管理費	26,996	27,269	272
営業外費用	6,452	9,064	2,612
経常損益	12,595	26,389	13,794
法人税等	3,298	5,754	2,456
当期純利益	9,297	20,634	11,337

【経常収益】

利用料金収入について、三浦市の予測を計画値としており、収入が計画より8,649千円上回った。

計画支援報酬については、提案時の金額を計画としていたため、実績と差異が生じた。

営業外収益について、市負担による修繕が行われたことにより計画との差異が発生している。

【経常費用】

売上原価・販売費及び一般管理費について、計画額と大幅な差異はない。

営業外費用は、市負担による修繕が行われたことにより計画との差異が発生している。

3-2.2024 年度 KPI（財務管理目標値）の状況

財務管理目標値について、達成状況を報告する。**達成率は、各四半期時点での累積値である。**

項目	目的	目標値	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
経常収支比率	収支バランスの管理・持続可能性の確保	100.0%	168.7%	108.2%	114.9%	141.8%
売上高経常利益率	事業運営の収益性確保	5.2%	24.2%	18.7%	15.5%	11.1%
当座比率	短期的な財務健全性・継続性の確保	120.0%	265.6%	215.2%	152.9%	142.3%
自己資本比率	中長期的な財務健全性・継続性の確保	45.0%	52.9%	49.6%	45.4%	43.1%

【2024 年度の内容】

- ・経常収支比率、売上高経常利益率、当座比率は目標を達成した。
- ・自己資本比率が目標を下回った原因は、三浦市が費用負担する改築工事・増築工事の請負業者への支払を一時的に当社で立替払える契約となっており、その資金の短期借入を行ったためである。
短期借入金は、市からの入金後、2025 年 4 月迄に返済予定であり、返済後は目標値 45%を満たす見込み。

4.2024 年度 KPI（財務管理目標値以外の目標値）の状況

財務管理以外の目標値について、報告する。下記の表では、2024 年度末目標値に対する、KPI 達成度を記載している。

電力購入量削減率を除いて、今年度の KPI について目標を達成した※³。

項目	内容	年度末目標値	単位	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間計	KPI達成度
【経営】コンプライアンス									
苦情・要望・相談等対応率	市民等から寄せられる苦情・要望・相談事項の対応率	100%	発生件数	4	0	2	2	8	100%
			対応件数	4	0	2	2	8	
コンプライアンス研修実施率	コンプライアンス研修の年間計画に対しての実施率	100%	計画件数	0	1	1	0	2	100%
			実施件数	0	1	1	0	2	
災害・事故対応訓練実施率	BCP内の訓練計画の計画に対しての実施率	100%	計画件数	2	3	0	1	6	100%
			実施件数	2	3	0	1	6	
BCP	BCP見直し・改定回数	100%	計画件数	1	0	0	0	1	100%
			実施件数	1	0	0	0	1	
【経営】環境対策									
下水道汚泥リサイクル率	汚泥発生量に対して、堆肥やセメント材料としてリサイクルされた割合	100%	汚泥発生量 (単位：t)	313.32	338.64	335.40	330.29	1317.65	100%
			汚泥利用量 (単位：t)	313.32	338.64	335.40	330.29	1317.65	
臭気・振動・騒音発生件数	臭気・振動・騒音に関する苦情の発生件数	0件	発生件数	0	0	0	0	0	0件
【改築】品質管理・安全管理									
改築工事の進捗管理・遅延防止※1	計画に対する年度未完了見込率	100%	達成率	100%	100%	100%	100%		
第三者災害・労働災害発生件数	災害の発生件数	0件	発生件数	0	0	0	0	0	0件
【維持管理】運転管理・保全管理									
放流水質の要求水準達成率※1	放流水質の要求水準達成率	100%	達成率	100%	100%	100%	100%		
汚泥含水率の要求水準達成率※1	汚泥含水率の要求水準達成率	100%	達成率	100%	100%	100%	100%		
管きょ調査率※2	管きょ点検・調査の実施率 (対計画比)	100%	達成率	11%	29%	96%	114%	114%	114%
電力購入量削減率※3	東部浄化センターの電力使用量に対する太陽光発電量の割合	20%	削減率	8%	25%	17%	23%	18%	92%
その他									
ICT導入率※4※5	ICT導入に関する計画に対する実績値	100%	計画	2	0	0	4	6	117%
			実績	2	0	0	5	7	
帳票類電子化率	帳票類の電子化計画に対する実績値	100%	データドリブンによる事業運営の高度化に向けて、帳票類電子化計画を策定している。						

- ※ 1 年度末時点の累計の値で KPI 達成率を判定せず、四半期毎に KPI 達成率を確認している。
- ※ 2 各四半期の達成率は累計を記載している。
- ※ 3 電力購入量削減率については、関係機関との調整の結果、太陽光発電設備の稼働開始が 4 月から 6 月に変更となり 4・5 月の発電量が無いため 20 未満となっている。
- ※ 4 ICT 導入率についての計画は下記のとおりである。
 - 第 1 四半期…メール、Web 会議導入の計 2 件
 - 第 4 四半期…岩浦、上宮田 2 号、上宮田 4 号の計 3 箇所のマンホールポンプクラウドサーバー化及び遠隔監視システム導入 1 箇所の計 4 件
 - なお、第 1 四半期は導入済みの ICT 技術も含めた計画、実績数としている。
- ※ 5 第 4 四半期は、導入予定であった遠隔監視システム 1 箇所、金田 2 号 MHP（岩浦）、上宮田 2 号 MHP、上宮田 4 号 MHP の計 3 箇所のクラウドサーバー化に加え、通報装置の故障が発生した金田 1 号 MHP についてもクラウドサーバー化を行った。

2024 年度発注工事一覧表

No.	工事名	工事概要	工期	受注者（赤字は地元企業）	事業費（税込） （単位：円）
1	令和6年度東部浄化センター監視制御設備等更新工事その2	汚水処理設備の運転状況を遠隔で監視するための設備を導入するもの。 （金田中継センター設置の機器製作）	R6.6.12~R7.3.31	富士アイティ株式会社	4,664,000
2	令和6年度金田蛭田地区マンホール蓋交換工事	道路補修工事に伴い老朽化したマンホールを交換するもの。N=9箇所。	R6.7.17~R6.9.30	東建設株式会社	2,967,800
3	令和6年度下宮田3号ポンプ室建築付帯設備等更新工事	下宮田3号ポンプ室の内装、ファン、給水管を更新するもの。	R6.8.9~R6.10.31	株式会社第一テクノ 横浜営業所	2,024,000
4	令和6年度東部処理区本管改築工事	老朽化した汚水管路を更生するもの。L=60m。	R6.10.10~R7.3.31	有限会社石渡技建	35,838,000
5	令和6年度東部処理区マンホール蓋交換工事	老朽化したマンホールを交換するもの。N=52箇所。	R6.11.29~R7.3.31	株式会社戸部組	27,095,200
6	令和6年度上宮田2号、4号マンホールポンプ制御盤等更新工事	上宮田2号MHPと上宮田4号MHPの制御盤等電気設備を更新するもの。	R6.12.18~R7.3.31	株式会社第一テクノ 横浜営業所	14,817,000
7	令和6年度東部浄化センター監視制御設備等更新工事その3	汚水処理設備の運転状況を遠隔で監視するための設備を導入するもの。 （機器据付・配線工事）	R7.1.7~R7.3.31	英和株式会社 川崎営業所	4,422,000
8	令和6年度東部浄化センター凝集剤添加装置設置工事	放流水質の安定化に寄与する凝集剤の添加ユニットを導入するもの。	R7.1.8~R7.3.31	英和株式会社 川崎営業所	16,390,000
9	令和6年度金田皆ヶ久保地区マンホール蓋交換工事	道路補修工事に伴い老朽化したマンホールを交換するもの。N=4箇所。	R7.3.1~R7.3.31	ミヅフ建設株式会社	1,144,000
10	令和6年度東部浄化センター管理棟他鉄蓋更新工事	東部浄化センター内の老朽化したマンホールを交換するもの。N=17箇所。	R7.3.5~R7.3.31	株式会社戸部組	1,629,980
11	令和5年度金田岩浦地区枝線管渠増築工事	汚水管路（枝線）を新設するもの。L=187.8m。	R6.9.12~R7.3.31	株式会社オガワ	19,497,500
12	令和6年度金田岩浦地区マンホールポンプ設置工事	No.11工事に伴い、マンホールポンプ設備を設置するもの。	R6.11.1~R7.3.31	株式会社第一テクノ 横浜営業所	9,042,000
13	令和6年度上宮田岩井口地区整備工事	宅内に連結する汚水取付管等を新設するもの。	R7.1.20~R7.3.31	有限会社石井設備工業	1,067,000
14	令和6年度金田岩浦地区枝線管渠増築工事に伴う舗装本復旧工事	No.11工事に伴い、舗装本復旧を行うもの。	R7.3.31~R7.11.30	株式会社オガワ	13,244,000